

農業委の役割 大きい

自民 酒田と山辺で意見交換会

農業委員会・農業生産法人に関する検討プロジェクトチーム現地意見交換会



農業委員会の役割と課題などをテーマに、自民党のプロジェクトチームと酒田市の関係者らが意見交換した＝酒田市民会館

自民党の「農業委員会・農業生産法人に関する検討プロジェクトチーム（PT）」（座長・西川公也衆院議員）は24日、初めての現地意見交換会を酒田市、山辺町で相次いで開催。農業委員関係者らと現状や課題、将来像などについて議論した。農地集積や耕作放棄地解消などで、農業委が果たす役割は大きいとの

見解で一致。会合後、西川氏は「日本の農業に貢献できる改革をしたい」と述べた。政府は6月にも取りまとめる農業強化策に農協改革や農業委の在り方、農地利用の要件緩和などを盛り込む考え。同PTは今後、千葉で意見交換会を開くなどして4月中にも検討結果を取りまとめ、官邸とのすり

合わせを図るとしている。この日の2会合のうち、酒田市民会館では約50人が参加。PTからは西川、宮腰光寛、坂本哲志、鈴木憲和の各衆院議員と岸宏一、馬場成志、大沼瑞穂の各参院議員、酒田市側からは本間正巳市長、五十嵐直太郎市農業委員会長らがそれぞれ出席した。

酒田市側の出席者からは「事業の円滑化のためには地域内での話し合いが不可欠で、農業委員の強いリーダーシップに期待している」「コメなどの土地利用型と（周年栽培が可能な）施設園芸型とを切り離して（農政改革）を考えてほしい」などの意見が出た。

PT側は「企業などの」農地貸借は認めるが、所有は認めないという基本路線を考えている」と説明。西川氏は「都市部では、（農業委員は）いないというところもあるが、酒田市の取り組みは必要との証しだ」と語った。